

白山ふるさと文学賞

第二回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈母へのおもいに関する作文〉

小学生中学年の部 優秀賞

お母さんからのアドバイス

旭丘小学校三年

ふたかど まゆ
二角 茉友

受賞の言葉

私は、思いがけず今回賞をもらうことができおどろきました。

自分で「書きたい」と思う文章を書くことができました。

書いているときはつらかったけど、まんぞくいく作品に仕上がりました。

どうもありがとうございました。

私は、お母さんから愛じょうをいっぱいもらっています。それを思い出してこの文を書きました。

私は、いつも自分で考えるしゆく題に頭をかかえています。でも、そんな時はお母さんがいろいろなアイデアとアドバイスをわたしにくれます。お母さんのアイデアとアドバイスは答えを教えるように言うのではなくありません。自分で考える時間もあつたり、教えてくれる時間があります。お母さんの教え方は、やさしいかんじもあるし、心に火がつくうるさいしゃべり方もあります。でも、そのアドバイスは、いつも全部力になります。そのおかげで自分がほしかった物を手に入れるようにいい作品が出来あがります。ほかに、私がかぜをひくと、お母さんはかみじょうをしてくれます。お母さんは、「何食べたい。」と聞いて、私が食べられるようなものを作ってくれます。それを食べられるのがしあわせだと思っています。お母さんが近くにいてだけで、私は、安心してゆっくり休んだりねむる事ができます。

もし、お母さんが「まゆちゃん、お母さんちよつと出かけてくるね。」ということになつても、私は、おるすばんをする自信がついてきたから、だいじょうぶ私にまかせて、という気もちがあります。2年のおわりごろから、おるすばんをするようになって、さいしよはお母さんのいない一人ぼつちの家がこわくて、好きじゃありませんでした。こわい気持ちをお母さんに言つたら、

「だいじょうぶ。気にしなくていいよ。」と言ってくれたので、私はほつとしました。だから、今はもう、おるすばんを楽しいと思えるようになりました。お母さんのアドバイスのおかげです。

でも、お母さんとはときどき私でもわかる、おもしろいへんなまぢがいます。それを聞いて私たちは、わらつたりその答えを言います。するとお母さんは、

「え、うつそー。」と答えます。それで私は、心の中で、「めつたにまぢがえないのに。へんだな。」と思いました。でも私はそういう一面も好き

です。わけは、まじめばかりのすがただとおもしろくないし、こわいからです。なので、お母さんはそのままのお母さんでいてほしいと思います。

私は、お母さんの後ろすがたを見ていて、たいへんそうだと思っています。お母さんは、家の家事が終わつた後、ためいきをつくるので、私は心ばいになります。お母さんは家族のことを考えてくれるけど、たまには、自分の体にも気をつかつてほしいと思います。私のためにわざわざ時間をとつてくれて、その時にあつたアドバイスをくれて、かんしゃしています。

お母さんのアドバイスは、ゆう気がでたり、力をもらつたりと心に自身がもてるアドバイスがいっぱいです。これからは、私も言葉で元気づけていつてあげたいと思います。

